

面接授業における学生のニーズを反映した 授業設定の重要性

Importance of deciding class contents reflecting students' subjective and objective needs in the English classroom teaching

小屋 多恵子
法政大学

Abstract

This paper aims to introduce how to make up the curriculum reflecting students' subjective and objective needs in the English classroom teaching in the University of Air. One classroom teaching consists of only five classes (two hours and fifteen minutes per class). Students who enroll the classes are various in ages, previous learning experiences, previous and current professional backgrounds, learning goals, and interests because the university has a unique system which widely provides everyone who is eager to learn at any time with an opportunity for university-level education as part of their lifelong learning. In order to conduct fruitful classes for any students in such a limited time, it is important for teaching stuffs to plan contents and methodology based on students' subjective and objective needs and modify them through negotiation and consultation with students, and for teaching stuffs and students to do assessment of teaching and learning process.

キーワード: 面接授業 (classroom teaching), ニーズの分析 (needs analysis), 学習指導案作り (curriculum process), 自己評価 (self-evaluation)

科目名	英語 II (選択科目)
対象者とクラス人数	大学生 20名
学習の目標	日本文化を英語を通していかに発信していくかが目標であるため、日本文化の知識を深めることと、それを発信する英語力を向上させることを目指す

1. はじめに

この実践報告では、放送大学の英語 II という選択科目の面接授業において、学生のニーズに基づいて組み立てたカリキュラムと学生によるその評価を示すものである。この面接授業には主に 3 つの特長がある。1 つ目は、岡倉天心の “The Book of Tea” をもとに編纂されたテキストを使った授業を行うのであるが、学生は放送によってこのテキストのすべてのレッスンを学ぶ機会が設けられているということ。2 つ目は、面接授業の形態に関することであるが、2 時間 15 分の授業を 5 回行うことで完結するコースであること。3 つ目は、放送大学の特長でもあるが、様々な年齢や職業の人々がそれぞれの目的をもって唯一の対面式授業であるこの面接授業に参加すること。このような特長を持つ面接授業をいかに充実したものにするかは、教師が設定する授業の目標や内容と共に、学生のニーズを出来るだけ多く満たす授業を行うことにかかっている。

2. 放送大学の特長

2.1 放送大学とは

放送大学は、生涯学習という時代のニーズに答えるため、1981 年に放送大学学園法公布・施行を受けて設立された学校である。主な特長は、①生涯学習機関として、広く社会人に大学教育の機会を提供すること、②テレビ・ラジオの専用の放送局を開設し、放送等を効果的に活用した新しい教育システムであること、③既存の大学との連携協力を深め、単位互換の推進や教員交流の促進すること、である。このような特長に基づき、満 18 歳以上で大学入学資格を持っているものは誰でも入学試験を受けずに書類によって入学を許可され、所定の単位を取得することにより学士の学位が授与される。そのため、現在様々な年代や職業を持っている人たちが学んでいる。このように、放送大学は高等教育を受けたいと考える人に対して幅広く門戸を開放している教育機関である。

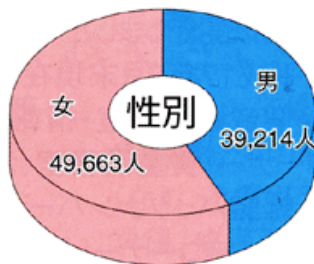


図 1. 在学生 (88,877 人) の性別 (2004 年度第 2 学期現在)

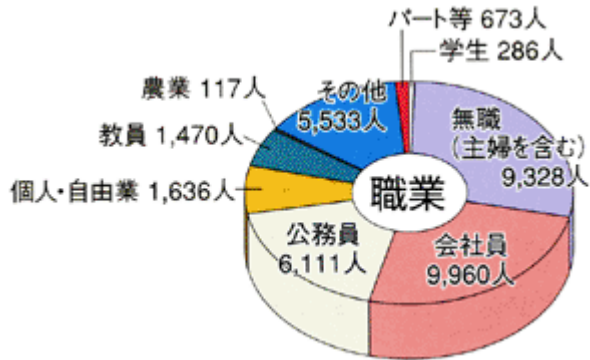


図 2. 卒業生の職業 (2005 年 3 現在)

(図 1, 2 とも放送大学ホームページ <http://www.u-air.ac.jp/hp/guide/guide06.html> から引用)

2.2 面接授業とは

放送大学での学習方法は主に、次の 4 つである。テレビやラジオを視聴する放送授業、テキストから学習する印刷教材、放送授業の後に提出する通信指導 (レポート)、そして各学習センターで教員から直接指導を受ける面接授業 (スクーリング) である。この 4 つ目の面接授業は、日ごろ個人で行う学習の中で唯一教員から指導を受け、他の学生と共に学べる場である。この面接授業は、学期毎に 1 科目 2 時間 15 分の授業×5 回から成り立っており、卒業までに 20 単位以上取得することが義務付けられている。

3. 授業の目標と内容の設定

授業前に教師は大まかな授業の目標と内容を設定してから第一回目の授業に臨み、最初の授業の中で学生のニーズ調査をし、それを反映させた授業を行うことにした。これは、Nunan (1988) をはじめ多くの研究者の主張に基づいている。

3.1 教師が考える目標と内容

教師が考える面接授業、英語 II の授業目標は、主に茶道をはじめとする日本文化の知識を深めることと、それを発信するために必要な英語力を向上させることである。今回のテキストは日本文化にかなり造詣の深い岡倉天心が自国の伝統的な茶道文化のみならず、茶室を中心とした日本建築と西洋建築の比較、日本人の考え方と西洋人の考え方の比較にまで話題を広げ、外国人向けに、それも教養の高い読者を念頭に置いて書かれた英文を基に

作成されている。そのため、このテキストを理解するためには、日本文化、特に茶道の知識が不可欠である。しかしながら、日本人でありながら自国の伝統文化に精通している人は少ないように思われる。そのため、まずは日本文化そのものの理解を深めることが大切であると考えた。

また、その日本文化の知識を英語を通していかに発信するか、その手段である英語力を向上させることも不可欠である。それは、テキストを理解する英語の読解力のみならず、それを口頭で伝えたり、英語で書いたり、更には日本文化についての外国人からの質問を聞いてそれに答えることも考えられる。そのため、日本文化を発信するための4技能の向上を目指す必要がある。このように、教師はあらかじめ2つの大きな目標を設定した。

次に授業内容を決定するためには、次の3つの点を考慮した。1つ目は、英語IIのテキストは放送授業で詳しく解説しているため、面接授業前にすでにこの放送授業を取り学んでいる学生がいる可能性があるということである。2つ目には、2時間15分×5回の授業という限られた時間の中で、いかに充実した内容を盛り込んで5回で完結した内容にするか、いかに参加型の授業を通して学生に達成感を与えるかということである。3つ目は、年齢や職業や英語のレベルが様々な学生が受講する可能性があることから、なるべく多様なニーズに答えられるような内容を学べる授業にすることである。この3点を考慮して、次の3点を予め決めておいた。

- ① 教科書に沿った茶道の精神や茶道の歴史から、もっと私たちの身近なお茶の美味しい入れ方やお茶の効用等の話題や茶室の装飾品や建築様式やお菓子等、更に日本料理やその他の日本文化にまで触れる。
- ② 5回目には茶道を初めとする日本文化に関する内容について自分の興味があるものを1つ選び、調べて発表してもらおう機会を設ける。それによって、学生の多様な興味に対処する。
- ③ 面接授業であるため、なるべくグループワークやペアワークによってクラスメイトと共に授業に参加する形態にする。

3.2 学生のニーズ調査

第一回目の授業時に教師側の大まかな目標と授業内容を説明した後に、学生のニーズ調査を実施した。調査の項目は、次の3つである。

- ① 茶道の経験はありますか？また、茶道についてはどのようなことを知っていますか？
- ② 茶道についてどのようなことに興味がありますか？
- ③ どのような英語力を向上させたいと思いますか？

まず、①については主に次の2つにまとめることができる。

面接授業における学生のニーズを反映した授業設定の重要性

- ・茶道経験は様々であり、趣味で長い間習っている人から全く経験がない人までいる。
- ・茶道は、日本の伝統文化の1つであり、独特の精神世界、美の世界、作法があり、それを少しでも理解したいと考えている。

茶道の経験は人それぞれであるが、奥深く、日本の心を反映させたものであり、歴史の中で継承・発展してきたものであるという共通概念があった。そのため、茶道を少しでも理解できるような授業を心がけ、経験がある人の知識や体験をできるだけ反映させて実りの多い内容にすることが出来ると考えた。

次の②については主に次の3つにまとめることができる。

- ・茶道の精神と伝統文化として継承されているその歴史に興味がある。
- ・茶室の建築方法や茶室を飾る道具（茶花、茶器、掛け軸等）に興味がある。
- ・より身近なお茶について、つまりお茶の種類やおいしいお茶の入れ方に興味がある。

このように、茶道の真髄からより身近なお茶について興味の対象は幅広いが、茶道やお茶についての興味が全くない学生はいないことがわかった。授業では、この幅広い興味をなるべく網羅するように心がけるべきだと考えた。

次の③については主に次の2つにまとめることができる。

- ・多くの学生が英語の勉強からは遠ざかっているため、不安な気持ちで授業に参加している。また、英語に興味があるというよりも、茶道や日本文化に興味があるため、それを通して英語を勉強してみようと考えている学生がいる。
- ・学生が向上したい英語力は多岐にわたっている。つまり、全体的には4技能のどの技能の向上にも興味を持っている。

このように、英語力に自信を持っている人は少なく、英語に対する興味がある人もいれば、興味のある内容（茶道）を通して英語力が少しでもつければよいと考えている人もいる。授業では、なるべくこの不安な気持ちを取り除く楽しい授業を心がけ、少しでも出来たという気持ちを持たせることやなるべく4技能すべてを対象にしたアクティビティを提供すること、ペアーワークやグループワークを行い、クラスメイトと共に協力しあって授業に参加できるようにすること、が大切であると考えた。

3. ニーズを反映させた指導案の作成

教師が考える授業の目標と内容に学生のニーズを反映させた指導案を次のように作成した。

表 1. 面接授業指導案

授業回数	授業内容	目標 (英語)	目標 (文化)	学習形態
第一回目	初回 introduction > 授業の目標 > 評価と授業形態 > 注意事項	listening		全体授業 (英語で説明してから日本語で説明)
	Needs analysis > 茶道についての background と英語の目的			個別作業
	自己紹介 > 初めて会った人に対してどのような質問をするか brain storming > 自己紹介の型を聞き取ってみよう (3 パターン) > 自己紹介をしよう (3 人のパートナーと) > 宿題 3 人目の人を紹介する文章を英語で書いてこよう。	speaking & listening writing		全体授業 (英語で授業) から pair work へ
	お茶の精神 1 > 教科書 Lesson 1 の 2 段落目からわかるお茶の哲学を読み取って, 具体的に説明をしてみよう。 > 2 段落目を音読してみよう。	reading (段落構成 - 主題文, 支持文と listing の説明) pronunciation & pause	「お茶の哲学が人間と自然についての全概念を表している」という岡倉天心の意図を読み取り, 具体的に現代生活の中に具体例を見つけていく。	pair work から全体授業へ
第二回目	Introduction 2 > greeting	listening & speaking		全体授業 (英語で説明してから日本語で確認)
	段落構成を勉強しよう。 > 具体例から英語の段落構成を学習 > 身近な実例を学習した段落構成をもとに評価 (NTT のお知らせ通信)	reading	英文と日本文の特徴を理解する。	全体授業 (英語で授業) から group work へ
	お茶の精神 2 > 茶道の根本にある精神, 「わび」「さび」「みち」を理解しよう。その精神が現代生活の中でどのような場面で見られるか具体例を考えてみよう。 (<i>Keys to the Japanese Heart and Soul</i>) を資料として使用 > 宿題として 3 つの精神について様々な資料にあたりより理解できるものにする。	reading	茶道の根本にある精神を理解する。	group work
第三回目	Introduction 3 > World Englishes	listening & speaking		全体授業 (英語で授業)

面接授業における学生のニーズを反映した授業設定の重要性

	<p>Error analysis</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢正しい英文に直してみよう。(第一回目のクラスメイトの紹介文を英語で書く宿題から、よく間違える表現をみんなで直してみる) 	writing & grammar		pair work から全体授業へ (英語で授業)
	<p>お茶の精神 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢「わび」「さび」「みち」についてグループごとに発表→教科書の中で該当する箇所をその3つの概念をもとに理解 	reading	お茶の精神についての理解	全体授業
	<p>美味しい煎茶・紅茶の入れ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢宿題としておなじみの日本料理のレシピを考えてきて、次週黒板に書いておいてもらう。 	writing & listing	お茶の入れ方を英語で説明する。	group work
第四回目	<p>Introduction 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢My favorite beverage ➢好きな飲み物、その理由、飲む頻度を尋ねる表現を全体で考える。 ➢クラスメイトに好きな飲み物を聞いてみよう。 	listening & speaking		全体授業 (英語で説明してから日本語で確認) から pair work へ
	<p>日本料理のレシピ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢黒板に書いておいてもらった宿題のレシピを文法や表現の面からみんなでチェックして、料理名を当ててみる。その後、数名の学生にその場でレシピを読み上げてもらい、レシピを当てる。 	writing, speaking & listening	茶道から発展して日本食を紹介する。	pair work から全体授業へ
	<p>教科書からわかる岡倉点心の日本文化の捉え方。(Lesson 2, 7, 8, 9, 12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢日本文化 vs 西洋文化 ➢日本建築 vs 西洋建築 	reading	茶道から発展して日本文化と西洋文化の概念、日本建築と西洋建築を比較し、更に大きな枠組みから自国の文化を理解。	group work
	<p>茶室と西洋建築をビデオで見よう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢NHKの教育番組「趣味悠々」から茶道のビデオを見て茶室の造りや精神を更に深める。 ➢Preserving the Pastのビデオを見て、イギリスのNational Trustが管理する家から西洋建築を理解する。 	listening	ビデオを使って更に自他文化を理解。	group work から全体授業へ
第五回目	<p>Introduction 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢英語の学習方法 	listening & speaking		全体授業 (英語で説明してから日本語で確認)
	<p>Presentation</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢参加者全員が発表し、全員がそれに対する評価・コメントをする。 	speaking & listening	茶道を初め、様々な日本文化を紹介し、理解を深める。	全体授業 (英語または日本語で)
	<p>Self-evaluation</p>			個別作業

まずは、茶道そのものの知識を強化するため、教科書を基に茶道の根本概念である「わび」「さび」「みち」の3点について理解するアクティビティを第二回目と第三回目に実施した。その後、学生の興味が茶道の茶室、茶菓、茶花、掛け軸からお茶の美味しい飲み方やその効用にまで及んでいることを反映させて、美味しい煎茶や紅茶の入れ方（第三回目）、茶室の造りや装飾品を含んだ日本建築と西洋建築の比較（第四回目）、岡倉天心が考える日本文化と西洋文化の比較（第四回目）を理解するアクティビティを設けた。また、学生すべての興味ある対象を網羅するアクティビティを実施するには時間が制約されているため、第五日目の最終日に、各自が興味ある内容について発表するプレゼンテーションを実施することにした。5回の授業後にこの科目取得の可否をつけなければならない為、この各自の興味に関するプレゼンテーションを試験の代わりとした。

次に、日本文化を伝える英語力を習得するため、また学生それぞれが4技能のいずれかを向上させたいという目的を持っているため、授業中のアクティビティはそのすべての技能を対象としたものを設定した。スピーキングに関しては、自己紹介アクティビティ（第一日目）、好きな飲み物についてのアクティビティ（第四回目）、それからプレゼンテーション（第五日目）が対象となる。リスニングに関しては、授業の最初の数分を使ってある主題について英語で語るイントロダクションを必ず設け、集中して聞いて理解するアクティビティ（毎回）、イギリスのナショナルトラストに関するビデオから西洋建築について理解するアクティビティ（第四回目）が対象となる。リーディングに関しては、お茶の精神を理解するアクティビティ（第一回目、第二回目、第三回目）、テキストから茶室やその装飾品、日本文化と西洋文化についての比較を読む取るアクティビティ（第四回目）が対象である。ライティングについては、初日に行った自己紹介から3人目のパートナーを紹介する英文を書くアクティビティ（第一回目の宿題）、日本料理のレシピを書いてくるアクティビティ（第三回目の宿題）が対象である。その他、段落構成を理解するアクティビティ（第一回目と第二回目）、発音やチャンク読みの実践（第一回目）、挨拶の表現を覚えるアクティビティ（第二回目）、文法の勉強を目的としたエラーアナリシス（第三回目）、お茶の入れ方や料理のレシピからリスティングの理解（第三回目と第四回目）も盛り込んだ。英語について不安に思いながら参加している学生が多いことから、なるべくペアーワークやグループワークを行って、みんなで助け合って参加できるような授業形態を取り入れたり、教師が簡単な英語表現や英単語を使った英語を話すことにより、少しでも理解できたという気持ちを持てたり、英語ばかりでなく茶道の内容についての知識や経験について自由に発言できるようなリラックスできる環境作りをしたりすることを心がけた。

4. 面接授業終了後の学生評価

面接授業の最終日に、学生に自分自身の授業に対する態度、感想、英語力、そして教師の授業の進め方等についてのアンケートを行った。アンケートは16からなる項目に「はい」「いいえ」「？」のいずれかに印をつけてもらう選択式と授業を終えての自分自身と授業について自由に書いてもらう記述式の2通りの方法で行った。選択式の結果は以下の通りであった。(記述式の結果はアペンディクスを参照していただきたい。)

まず、学生自身の授業に対する態度、英語についての考え方、そして教師の授業の進め方は概ね良い評価であった。良かった点は次の通りである。

- ・休まず積極的に授業に参加した人が多かった。(項目1, 2を参照)
- ・グループワークやペアワークにより、英語力に不安な学生でもクラスメイトと共に最後まで頑張りとおすことができた。(記述式結果を参照)
- ・授業を楽しめた学生が多かった。(記述式結果を参照)
- ・5回の授業を通して、これからも続けて英語を学んでいきたいという気持ちが芽生えた。(項目5と記述式結果を参照)

このように、一番の収穫は英語に対するアレルギーが解消され、少し自信をもって今後も前向きに英語を学んでいこうという気持ちが芽生えたことである。これは、やはり面接授業の中で、実際に人と触れ合い、励ましあいながら授業に参加できることの長所であると考えてよいだろう。

英語に対するポジティブな考え方が芽生えた一方で、やはり改善しなくてはならない点が残った。それは、次の通りである。

- ・楽しく授業に参加できたが、個人としてはもう少し授業に貢献できなかったかという反省の気持ちを持った学生がいた。(項目3, 4を参照)
- ・自分の英語力に対しては、やはりまだ自信を持つところまでいかない学生がいた。(項目9, 10, 11)
- ・授業時の英語量が多すぎる、内容が多すぎると感じる学生がいた。(項目13, 14を参照)

5回の授業では、やはり英語力を向上させるのには限界があるようだ。この原因は授業時間が少ないということだけでなく、教師が授業に盛り込んだ内容が多すぎたため理解するための時間を学生に十分提供できなかったこと、スピーキングやリスニングを向上させたいと考える学生のために英語を話したり聞かせたりする時間を多くとったが、それが少々多すぎたこと等も関係していると考えられる。

表 2. 評価結果

Access yourself (無記名者を除く全 18 名)		はい		いいえ		?	
1	休まず授業に参加できましたか?	16	88.9%	2	11.1%	0	0.0%
2	積極的に授業に参加できましたか?	14	77.8%	0	0.0%	4	22.2%
3	次の授業の予習をして授業に参加しましたか?	12	66.7%	2	11.1%	4	22.2%
4	グループでの学習に貢献できましたか?	9	50.0%	2	11.1%	7	38.9%
5	もう少し英語を勉強しようという気持ちになりましたか?	18	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
Access your English (無記名者を除く全 18 名)		はい		いいえ		?	
6	簡単な自己紹介が英語でできるようになりましたか?	15	83.3%	0	0.0%	3	16.7%
7	英語で挨拶ができますか?	13	72.2%	1	5.6%	4	22.2%
8	英文を通して茶道の精神が理解できましたか?	10	55.6%	2	11.1%	6	33.3%
9	お茶の入れ方, プロセスを表すのに目印となる語を使って英語で表せましたか?	3	16.7%	5	27.8%	10	55.6%
10	茶室の意味やつくりの意味を英語で理解できましたか?	8	44.4%	3	16.7%	7	38.9%
11	岡倉天心の東洋文化と西洋文化の考え方を英語で理解することができましたか?	5	27.8%	2	11.1%	11	61.1%
Access your teacher (無記名者を除く全 18 名)		はい		いいえ		?	
12	毎授業の最初に英語で話したイントロダクションは興味をひくものでしたか?	17	94.4%	0	0.0%	1	5.6%
13	授業で使った英語の量は適当でしたか?	14	77.8%	1	5.6%	3 ⁽¹⁾	16.7%
14	授業の内容量は適当でしたか?	17	94.4%	0	0.0%	1 ⁽²⁾	5.6%
15	授業内の様々な作業 (ペアーワーク, グループワークを含む) の目的を示しましたか?	18	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	授業の開始時間, 終了時間をきちんと守っていましたか?	16	88.9%	0	0.0%	2	11.1%

(1)(2) 13, 14 に関して「ちょっと多い」というコメントがあった。

5. おわりに

この実践報告は、放送大学の面接授業を実施する際に、学生のニーズやバックグラウンドを反映させることが大切であったことを示したものである。一般的な大学と異なり、年齢や職業、そして英語力もかなり幅の広い学生に対して 5 回完結という集中授業を行う場合には、特にニーズやバックグラウンドといった情報は不可欠である (Brundage & MacKeracher, 1980; Munby, 1978)。今回のカリキュラムは、学生が変わるたびに少しずつ修正をしていく必要がある。限られた授業時間の中で、いかに楽しい授業と英語力を向上させる授業をかね合わせたものにしていくかは今後更に追及していきたい。

参考文献

- Brundage, D. H. & MacKeracher, D. (1980). *Adult learning principles and their application to program planning*. Ontario: Ontario Institute for Studies in Education.
- Munby, J. (1978). *Communicative syllabus design*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nunan, D. (1988). *The learner-centred curriculum*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 英文日本大辞典[編] (1996) 『英語で話す日本の心—Keys to the Japanese heart and soul』 講談社バイリンガルブック.
- 大橋理枝 (2003) 『英語 II (03) —The book of tea—』 放送大学教育振興会.
- 森田彰・湯舟英一・千葉敦・小屋多恵子・George Lee (2002) 『Greening up the world (地球環境と人々の暮らし)』 成美堂.

Appendix : 学生評価 (記述式)

[授業に対する感想]

- ・ 茶道の意味がとても難しかった
- ・ 初回のイントロダクションでは意味がさっぱりわからず、全出席は無理かと思いました。グループワークがあったので、周りの人たちをお話をするうちに、少しずつ慣れてきた感じがします。毎回明るい笑顔の先生のお陰で、落ち込みがちな気分もなんとか前向きなものに出来たように思います。
- ・ 5回がすごくあっという間に終わりました。毎週課題もやりごたえがあってやる気も出たし、勉強のリズムまでできたので助かりました。授業の内容も充実していて様々なことがちょうど良い量ずつ出来てよかったです。
- ・ 先生はよく「リラックスして」と言ってくれたことがとても私にはいい効果でした。そして“Enjoy English”といってくれた事がこれからの英語の学習に大変役に立つものと思えます。
(
- ・ 20回以上スクーリングを受講した中で、1, 2に楽しい授業と思いました。特に、先生のお人柄をお見受けした後で、英国留学中に話が出来ないで悩んだとのこと、印象深くお聞きしました。
- ・ 先生の熱心さに唯々感動
- ・ 少し甘やかされている気持ちもなかったが、今まで少しある英語での会話を積極的にしようという気持ちが出てきた感じがします。なるべく横文字は避けてきましたが、これからはこの機会を活かしたいと思います。
- ・ まず楽しかった。(わからないところもあったけど) 全体的に捉え進めていく授業で英語が自然にしみてくる感じがした。もう少し続けたらリスニングが良くなりそうだと感じた。(受ける前よりほんの少し前進したかも)
- ・ 苦手な英語ですが、この授業を受けて少しずつでも自分のペースで取り組んでみようと思いました。私にとって刺激的でよい授業でした。
- ・ レベルが合わなくて大変でしたが、これから少しずつ続けていきたいと心に誓いました。
- ・ 毎授業のイントロダクションがとても楽しみでした。4技能を総合的に学習できました。楽しい授業でした。
- ・ とても楽しかったです。英語 II の面接授業ということで尻込みをしていたのですが、授業に出てよかったですと思います。
- ・ とても楽しく、様々な角度からの授業で変化があり、あっという間に5回が終了してしまいました。更に継続して授業が受けられればと思っています。
- ・ 発音がとてもきれいでわかりやすかったです。その時々の様子に合わせて内容を調節していただいたと思います。質問にもわかりやすく答えてくれました。
- ・ 先生のご教授はとても親切で生徒本位のものでした。今までで一番すばらしいものでした。クラスの人たちも素晴らしかったと思います。
- ・ とても印象深く楽しい授業でした。
- ・ とても楽しく充実していて時間の経つのが早い気がしました。皆さんのレベルが高く、自分の学力不足、知識不足、不足を認識し足らざるを知り、怠け心に鞭打たれた思いです。

面接授業における学生のニーズを反映した授業設定の重要性

- ・ 一回目を休んでしまったのでとても不安でしたが、どうにかその後続けてくれたのでまずは安心しました。でも、内容については理解度が低く受講していて申し訳なかったと思いました。

[自分自身への感想]

- ・ なんととっても語彙の不足を痛いほど感じた。どんな学習方法があるのか？64歳の頭のキャパシティがまだあるのか不安である。
- ・ 聞くのは好きだが話せないです。すべてに関してやらないのにだめだという気持ちは持たないようにします。
- ・ 驚くほど英語力がないことを思い知った。これからの時代できないよりできた方がいいでしょう。日常生活における会話程度はできたら楽しいでしょう。授業では、英語力はない分、一生懸命な気持ちで参加できたと思う。ついていけずボカんとすることはあったが、全出席を果たせたことがとても嬉しい。途中であきらめそうになったが、なんとか出来た。
- ・ 英語力では単語が増えたとし文章がだいぶ抵抗なく読めるようになりました。(多分)
- ・ なるべく先生がされた質問には声をだして答えるようにしました。話すことが大好きなので間違えてもいいから英語を使ってみようと思います。
- ・ 「目的を持って英語は学べ」勉強を続けます。
- ・ 英語力が向上したとは思えませんが、少し英語に接する機会を求めて行きたいと思います。
- ・ 今英語が話せるようになりたいとはっきりと思います。
- ・ 勉強の足りなさを痛感すること大でした。「継続は力なり」を信じて、老化した頭を人の10倍はやることを課してやって、少しは活性化した頭にしたい。
- ・ 最初の目標の読むこと、書くことを上達させたいということは、お茶の入れ方や飲み方を書いてみたことで挑戦できました。これからも自分自身にテーマを与えて練習したいと思います。
- ・ リスニングはなかなか…ですが、もっと出来るようになるといいなと思いました。
- ・ 英語を苦手としており、一回目の授業でギブアップの状態でしたが、同じグループの方々に支えて頂き、5回出席することが出来ました。今回の授業を受けたことが、英声の取り組みを前向きなものになりました。辞書を片手に夢中で学習しました。
- ・ 徐々に話す英語に触れたように思います。これからも少しずつ続けたいと思いました。一緒に勉強できたクラスメイトもとてもよかったです。
- ・ 皆さんとご一緒でき、最後まで頑張れたのは大変嬉しいことです。先生の熱意、楽しもうとする気持ちが伝わりました。少し英語アレルギーが治りました。
- ・ 添削をお願いしたカナダの友人と再会したとき、自分の思いをできるだけ伝えられる英会話の力をつける目標を持って、これからも学び続けていきたいと思います。
- ・ 課題の方にも書かせていただいたのですが、日本の伝統文化である「茶道」に知識と英語力のなさには自分自身でも驚くばかりで、これからの努力目標が出来たことを喜ばしく思っています。